

五輪とパラ選手 自らの体験語る

熊本市

2020年の東京五輪・パラリンピックへ向けて機運を高めようと、スポーツの価値を考えるフォーラムが4日、熊本市中央区の市国際交流会館であり、シンポジウムで五輪出場者らの話を約150人が聴いた。県教委などが主催した。

シンポジウムではロンドン五輪で陸上100メートルなどに出場した鹿本高出身の江里口匡史選手(29)と大阪ガスと、北京とロンドン両五輪の競泳代表の伊藤華英さん(33)、アテネ、ロンドン両パラリンピックの車いす陸上代表の花岡伸和さん(41)が登壇し意見を交わした。

20年東京大会について、江里口選手は「日本全体の大会としてスポー

ツを考える良い分岐点になればいい。熊本の皆さんも現地で本物に触れてほしい」と呼び掛けた。五輪やパラリンピック出場への秘訣(ひけつ)を、伊藤さんは「毎日の練習をやりきること、その場に立った自分の姿を想像すること」と述べ、花岡さんは「夢に向かう努力は必ず役に立つ」と語った。(山下友吾)



2020年東京五輪・パラリンピックなどについて意見を交わす
左から江里口選手、伊藤さん、花岡さん＝熊本市中央区

平成30(2018)年3月5日(月) 熊本日新聞